

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2191700158		
法人名	株式会社アライフ		
事業所名	認知症対応型共同生活介護グループホーム椿		
所在地	岐阜県恵那市山岡町下手向1620-2		
自己評価作成日	平成30年 1月25日	評価結果市町村受理日	平成30年 5月 8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JizyosyoCd=2191700158-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JizyosyoCd=2191700158-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 中部社会福祉第三者評価センター		
所在地	岐阜県関市市市賀大知洞566-1		
訪問調査日	平成30年 3月 1日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

理念「ともに笑い、ともに感じ、ともに生きる」グループホーム椿は車椅子となっても安心な設備を整えてますので、ADLの変化による居住環境を変えることなく、慣れ親しんだ場所で生活を続けて頂く事ができます。住む人、働く人、訪れる人、すべての人の心落ち着く癒される五感で思い、感じる建物と庭園が一体となる和モダンの造りとなっています。自治会のご協力を頂き、地域行事への積極的な参加や地域の方を交えた施設行事を行い、入居者様と地域住民の皆様が顔馴染みの関係となれるよう、職員一丸となり取り組んでいます。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

華美な装飾でなく、清掃が行き届いてホテルの様な雰囲気を持ったホームであり、利用者にとって居心地のよい環境が整っている。地域との繋がりが強く、行政とも良好な連携が構築されている。利用者が地域社会との係わりを継続し、共存していくという理念の下に支援している。  
 利用者の意向の汲み取りに弱い部分もあるが、申し送りや職員間の連携で補う努力をしている。利用者が安心して生活していくための支援の質の向上をいつも考えている。  
 防災に関しては、ハザードマップを参考に水害対策と土砂崩れ対策で、自治会に災害対応協力依頼書を提出し、地域からの回答待ちである。ホームのハード面は充実しており、さらに職員のレベルアップを図って、利用者本位の支援を徹底させようとしている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ともに笑い、ともに感じ、ともに生きる」という理念を元に、地域の中でともに暮らす家族の様な関係性が作れるよう日々努めております。	管理者をはじめ全職員が、支援前に確認する業務日報の書式や内容を改善し、利用者情報と共に明記された理念も確認し、その浸透に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設での行事や地域の行事に参加をさせて頂き、交流の機会を多く設けております。	自治会に加入し、地域の祭りや防災訓練に参加している。中学生の合唱披露や大学の落研が講演に訪れる。地域との交流を積極的に行い、利用者の活気に繋げている。昨年よりこども園との交流も始まった。	地域に向けて、グループホームの存在意義を伝え、認知症サポーター養成活動等、認知症への理解を求める機会を設ける事を期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の方の理解を深めるために、研修の資料や教科書等を設置している事や、運営推進会議等で認知症についての質問があった場合は、説明をさせて頂いております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の中で入居者様の生活をお伝えし、地域の方々の要望、ご意見をお聞きしたのち、サービスの向上に活かしているよう努めています。	運営推進会議への家族の参加が困難であるが、区長・副区長・民生委員・地域包括支援センター職員や住民代表が参加し、最近続いている服薬ミス・転倒事故の報告や防災についても話し合われている。	行事と併せて運営推進会議を開催する等、家族の参加を求める事を提案する。最近続いている事故の報告を兼ね、外部の意見や改善法等を聞き入れる機会を設けられたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所職員に運営推進会議への参加を依頼し、担当者で相談を行っています。また定期的に市役所に伺い情報交換を行い、協力関係が築けるよう努めています。	市主催の会議等には積極的に参加し、情報交換を行っている。他ホームで受け入れ拒否をされた利用者の受け入れ要請があり、行政や地域包括支援センターとは緊密な連携が図られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員身体拘束について周知しております。やむ負えず必要になった場合は、ご本人様、ご家族様を含め担当者会議を開催しますが、解除出来るよう随時モニタリング、担当者会議等を行い身体拘束解除を目指します。	身体拘束のマニュアルが作成され、業務日報には接遇目標が明記されており、職員は日々確認する事が出来る。安全のため玄関は施錠されており、自動ロックである。車いすの安全ベルトを使用している利用者は、家族の同意を得ている。	職員の身体拘束を含む外部研修の受講機会がなく、接遇に関する振り返りのチェックが不足している。様々な機会を活用し、職員全員が知識を深め、支援に繋げることを期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止の資料を作成し、職員へ周知するとともに虐待防止に努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者より、スタッフに対し、成年後見制度について説明を行うと共に、各自で自主的に地域で行われている研修への参加を促しております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の前に家族に施設見学を行っていただき、入居時に契約について十分な説明、不明な点があれば理解、納得していただき、ご了承いただけるよう努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会時に、入居者様に対する要望を確認後、内容を職員間で共有し、入居者の生活がより良くなるよう努めております。また、意見箱を設置し、家族や入居者の意見等を頂けるように努めております。	事情があり面会拒否や、周囲に入居を知られたくないという理由で来訪せず、ホームの現状を理解しない家族がいる。ホーム内に掲示していた利用者の作品や写真は、家族の要望により全て取り外された。	面会に来訪しない家族にも、ホームの状況や利用者の様子を知らせるホーム便り等を活用し、現状を理解してもらって家族との乖離が生まれないことを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例会議の開催時には代表者、管理者を交え職員間での意見交換を行い反映できるように努めています。	管理者は職員の意見を聞く機会を設けている。SNSを活用して自由に意見したり、利用者情報を共有している。職員の意見からレクリエーション活動を行い、最近はお菓子作りが利用者の楽しみとなっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者、管理者が現場に入る事で職員の努力、勤務状況の把握に努め、各自が向上心を持って働けるよう職場環境の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフ一人一人に役割や課題を持たせ、責任を持って業務に当たるように努めている。また、介護マニュアルを作成する事で質の向上に努めております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に他施設への見学、交流をさせていただき、意見交換できる機会を作り、外部との繋がりを持つ他、お互い向上出来るような体制づくりに努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約前に施設見学をしていただいた際に、ご本人、ご家族に面談を行い、要望等を確認し少しでも安心して入居できるように努めさせていただいております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前に施設見学をしていただいた際に、ご本人、ご家族に面談を行い、要望等を確認しご本人同様少しでも安心して入居していただけるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	契約前にご本人やご家族と面談し、要望を確認する事で、その時の状況にあったサービスを提供をさせていただき、希望に沿った支援ができるよに心がけています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「ともに笑い、ともに感じ、ともに暮らす」の理念の元に入居者様に安心して暮らせるような関係を築く事ができるように心がけています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との連絡を少なくとも月に一度は行う中で、ご本人の様子等を知っていただき、共にご本人を支えていけるような関係作りに努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族に面会、外出、行事への参加を依頼し、今までのご家族様との関係が途切れないような支援に努めさせていただいております。	家族の訪問があり、毎週1時間かけて来訪する友人がいる。馴染みの場所には家族の協力の下に外出が行われている。個人で新聞の購読を継続し、今までの生活習慣を継続している利用者がある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係性の把握に努め、入居者様が孤立してしまわないように職員が間に入り、入居者様との関係性を構築できるような支援に心がけております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、ご本人やご家族の介護に対する、不安や悩み等のご相談を頂いた場合は相談や支援が行えるように努めております。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前にご本人の暮らしの希望や意向の把握に努め、介護計画、サービスに反映していけるように努めています。	職員は利用者に話しかけ、「五平餅食べたい」「家が心配で見に行きたい」「バスツアーに行きたい」等の意向を把握している。表情や動作からも汲み取ることを意識しているが、職員からは「不足」との意見があった。	意向を汲み取った後、記録が無く介護計画にどう結び付けているのか明確ではない。記録を徹底し、より利用者の希望が叶えられる支援を望みたい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の面談の中でご本人様の生活歴、暮らし方をお聞きし、入居後も以前と同じ生活ができるよ家具を持ってきていただく等の生活環境作りに努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前の面談の中でご本人の以前の暮らし、心身状態の把握に努め施設での生活が以前の暮らしに沿えるよう努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議でのご本人、ご家族の意見、要望を聴かせていただき反映し、介護計画の作成するように努めています。	介護計画には身体介護と服薬情報が取り上げられているが、利用者や家族の意向の反映が不十分である。家族への説明や話し合いが徹底しておらず、利用者本位の介護計画とは言い難い。	家族との話し合いを徹底し、介護計画の見直しに来院できる工夫を望む。家族からの不安・不満を払拭できれば、利用者にとっても最高の支援に繋がると期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の朝礼、終礼または業務日報等に記入。職員間での情報共有を行う中で日々の実践や介護計画の見直しに努めております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者に関わり、ケアを行うなかで、既存のケア方法や関わりに固執しがちであるが、他種の方法があるのではと、小さな事から職員に、課題として提供し、多機能化に取り組んでおります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人が以前の生活により近い暮らしが出来るように地域資源の把握し出来る限り利用させていただきご本人の意向に添えるよう努めさせております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診への付き添い支援や月に1回の往診の手配等、ご家族の希望を大切に、納得がえられたかかりつけ医との密な連携をとり、適切な医療を受けられるような支援を行っています。	かかりつけ医の往診に加え、近くの歯科医の訪問診療もある。看護師も常駐しており適切な医療体制を構築しているが、職員の誤薬投与があった。通院受診は、原則家族の協力を求めている。	昨年度から服薬ミスが続き、服薬時の確認体制の見直しを行った。さらに、薬剤師等の専門家から助言を仰ぎ、再発防止に努めて安心が出来る環境を整える事を提案する。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は日常の関わりの中で知りえた情報を看護職と情報共有を行い相談し入居者に適切な受診や看護が受けられるように努めております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様の状態変化に早期に対応し、入院期間の短期化に努めています。また搬送先病院等には、早期な情報提供を行い、受診が円滑に行われるよう努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、重症化、終末期の方針をご家族様から聞き取り、施設で行える対応について説明しています。また、その状況に際したり、向かっている際はかかりつけ医の協力のもと、他施設や医療機関への転居をお願いしております。	看取りは行っておらず、重度化した場合には家族との話し合いを行い、同法人他施設か医療機関への住み替えを勧めている。かかりつけ医は看取りにつて前向きに考えているので、いずれは看取りを行いたいと管理者は考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者様の急変や事故発生に備え、緊急搬送等、随時看護師より指導、実技講習を定期的に行い実践力の向上に努めています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回(1回は消防署の立ち入り検査)の防災訓練を行い、災害時対応ができるよう徹底しております。また防災訓練に地域の方に参加していただき、協力が得られるような体制づくりに努めています。	年2回の避難訓練に加え、地区の防災訓練に参加し、備蓄も充分である。災害対応協力依頼書を地域へ提出し、現在回答待ちである。立地的に土砂災害・水害の危険がある為、地域の協力を求めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様一人ひとりの人格の尊重、尊厳を守れるように日々傾聴し、その方に合った言葉かけを行うように努めています。	敬語が基本であるが、スキンシップを兼ね親しみを込めて時には方言で職員は話しかけている。申し送りの時は個人名を使わず、個人情報保護を徹底し、人格を尊重した支援が行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の日常生活での思いや希望を傾聴しご本人様からの自己決定ができるよう支援させていただいています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の決まりや都合ではなく、入居者様の一人ひとりのペースや生活リズムを大切に、支援をさせていただいております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様それぞれに希望をお聞き、選択していただけるような支援を行う中で、その人らしい生活が出来るよう努めております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれに合った役割や、食事の配膳、下膳等その方に出来る事を行っていただくように心がけ毎日にハリのある生活を送っていただけるよう支援をさせていただいております。	冷凍食品を用い、必要に応じミキサー食や刻み食に加工している。嗜好に対応しているとは言い難いが、手作りのおやつやホームの畑で採れたイチゴやスイカが食卓を飾る。食卓拭きや下膳をする利用者もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の栄養状態、体重の把握し、食事の提供を行っています。水分補給に関してはご本人の希望の飲み物を伺い提供させていただいております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行い、口腔内の状態の把握が出来るよう努めています。また口腔ケアが出来る限りご本人で行えるよう支援をさせていただいております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様のそれぞれの排泄パターンを把握する事で排泄の失敗がないような支援を行っています。可能な限りトイレでの排泄をしていただけるように支援をさせていただいております。	排泄記録を参考に、自立している人には声掛けを行っている。夜間のみポータブルトイレを使用している利用者もいる。失敗後は清潔を保つように陰洗を行ったり、シャワーを活用した支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排泄をチェック表にて確認し、毎日のラジオ体操、口腔体操等の運動に働きかける等、便秘への個々に応じた予防に取り組んでおります。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には入浴日は決めさせていただいてますが、個々に合わせて随時希望を確認し、希望に沿えるよう支援させていただいております。	週2回、希望者のみ入浴支援を行う。機械浴を設置し、寝たきり状態でも入ることが出来る。もう一つの浴室には左右対称の浴槽があり、どちら側の麻痺でもまたいで入れる様に工夫がある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様それぞれの生活リズムに合わせてそれぞれに合った生活が送っていただけるよう支援させていただいております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報のファイルを作成している事や看護師からの情報伝達が随時行われており、業務日報、朝礼にて周知徹底し介護士全員に症状の把握に努めております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様一人ひとりの趣味や生活歴に合わせて、毎日楽しくご本人のペースに合った生活ができるよう努めております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的に地域のお祭りや、喫茶店、近くのお店に買い物に行く等外出、外泊が出来るよう支援させていただいております。	寒期は、日常の散歩は少ないが、喫茶店や買い物に出かけている。地域の道の駅やお祭り、お花見が恒例となり、楽しみにしている利用者が多い。天気の良い日はテラスでお茶を飲み、外気浴を行っており、家族の協力でする利用者もいる。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭に関しては施設での管理としています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	テレビ電話が出来る環境があるため、遠方の家族や知人と顔を見ながらの会話が楽しめます。また、手紙のやり取りに関しましても、ご本人やご家族のご意見に合わせて支援させていただいております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は開放的となっており、馴染みのある畳も設置しており、照明はすべて暖色系の物を使用し、外の光を感じられるように工夫しております。庭園には椿と楓があり、一年を通して、四季を感じて頂ける工夫しております。	共用空間はホテルのような雰囲気があり、建物内を見学して利用を決める家族が多い。家族の意向により利用者に関する掲示物はないが、窓から見える庭園を眺め、外出が困難な利用者も四季を感じる事が出来る。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースでは一人の時間が確保できるように、テーブルから離れた所にソファを設置している事や気の合ったご利用者様同士で過ごす事ができるように座る位置等に留意しております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具は使い慣れた馴染みのある物をお持ち頂くようにし、生活環境に変化があっても、混乱を防ぎ、ご本人が居心地よく過ごす事が出来るように努めております。	居室の清掃やシーツ交換を、利用者が行うこともある。年季の入ったタンスや椅子、家族の写真や遺影、仏壇等、多様な馴染みの物が持ち込まれている。居心地のよさそうな居室が多い。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人様の意思表示に対し、出来る事を理解して頂き、今持つ「できる能力」のなかで、ご本人が自立心をいただいていた様な生活、役割を職員と共に考え、支援しております。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191700158		
法人名	株式会社アライブ		
事業所名	認知症対応型共同生活介護グループホーム椿		
所在地	岐阜県恵那市山岡町下手向1620-2		
自己評価作成日	平成30年 1月25日	評価結果市町村受理日	平成30年 5月 8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kanji=true&amp;JigyosyoCd=2191700158-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kanji=true&amp;JigyosyoCd=2191700158-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 中部社会福祉第三者評価センター		
所在地	岐阜県関市市市賀大知洞566-1		
訪問調査日	平成30年 3月 1日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念「ともに笑い、ともに感じ、ともに生きる」グループホーム椿は車椅子となっても安心な設備を整えてますので、ADLの変化による居住環境を変えることなく、慣れ親しんだ場所で生活を続けて頂く事ができます。住む人、働く人、訪れる人、すべての人の心落ち着く癒される五感で想い、感じる建物と庭園が一体となる和モダンの造りとなっています。自治会のご協力を頂き、地域行事への積極的な参加や地域の方を交えた施設行事を行い、入居者様と地域住民の皆様が顔馴染みの関係となれるよう、職員一丸となり取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ともに笑い、ともに感じ、ともに生きる」という理念を元に、地域の中でともに暮らす家族の様な関係性が作れるよう日々努めております。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設での行事や地域の行事に参加をさせて頂き、交流の機会を多く設けております。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の方の理解を深めるために、研修の資料や教科書等を設置している事や、運営推進会議等で認知症についての質問があった場合は、説明をさせて頂いております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の中で入居者様の生活をお伝えし、地域の方々の要望、ご意見をお聞きしたのち、サービスの向上に活かしていきたいよう努めています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所職員に運営推進会議への参加を依頼し、担当者で相談を行っています。また定期的に市役所に伺い情報交換を行い、協力関係が築けるよう努めています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員身体拘束について周知しております。やむ負えず必要になった場合は、ご本人様、ご家族様を含め担当者会議を開催しますが、解除出来るよう随時モニタリング、担当者会議等を行い身体拘束解除を目指します。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止の資料を作成し、職員へ周知するとともに虐待防止に努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者より、スタッフに対し、成年後見制度について説明を行うと共に、各自で自主的に地域で行われている研修への参加を促しております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の前に家族に施設見学を行っていただき、入居時に契約について十分な説明、不明な点があれば理解、納得していただき、ご了承いただけるよう努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会時に、入居者様に対する要望を確認後、内容を職員間で共有し、入居者の生活がより良くなるよう努めております。また、意見箱を設置し、家族や入居者の意見等を頂けるように努めております。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例会議の開催時には代表者、管理者を交え職員間での意見交換を行い反映できるように努めています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者、管理者が現場に入る事で職員の努力、勤務状況の把握に努め、各自が向上心を持って働けるよう職場環境の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフ一人一人に役割や課題を持たせ、責任を持って業務に当たるように努めている。また、介護マニュアルを作成する事で質の向上に努めております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に他施設への見学、交流をさせていただき、意見交換できる機会を作り、外部との繋がりを持つ他、お互い向上出来るような体制づくりに努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約前に施設見学をしていただいた際に、ご本人、ご家族に面談を行い、要望等を確認し少しでも安心して入居できるように努めさせていただいております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前に施設見学をしていただいた際に、ご本人、ご家族に面談を行い、要望等を確認しご本人同様少しでも安心して入居していただけるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	契約前にご本人やご家族と面談し、要望を確認する事で、その時の状況にあったサービスを提供をさせていただき、希望に沿った支援ができるよに心がけています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「ともに笑い、ともに感じ、ともに暮らす」の理念の元に入居者様に安心して暮らせるような関係を築く事ができるように心がけています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との連絡を少なくとも月に一度は行う中で、ご本人の様子等を知っていただき、共にご本人を支えていけるような関係作りに努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族に面会、外出、行事への参加を依頼し、今までのご家族様との関係が途切れないような支援に努めさせていただいております。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係性の把握に努め、入居者様が孤立してしまわないように職員が間に入り、入居者様との関係性を構築できるような支援に心がけております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、ご本人やご家族の介護に対する、不安や悩み等のご相談を頂いた場合は相談や支援が行えるように努めております。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前にご本人の暮らしの希望や意向の把握に努め、介護計画、サービスに反映していけるように努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の面談の中でご本人様の生活歴、暮らし方をお聞きし、入居後も以前と同じ生活ができるよ家具を持ってきていただく等の生活環境作りに努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前の面談の中でご本人の以前の暮らし、心身状態の把握に努め施設での生活が以前の暮らしに沿えるよう努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議でのご本人、ご家族の意見、要望を聴かせていただき反映し、介護計画の作成するように努めています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の朝礼、終礼または業務日報等に記入。職員間での情報共有を行う中で日々の実践や介護計画の見直しに努めております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者に関わり、ケアを行うなかで、既存のケア方法や関わりに固執しがちであるが、他種の方法があるのではと、小さな事から職員に、課題として提供し、多機能化に取り組んでおります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人が以前の生活により近い暮らしが出来るように地域資源の把握し出来る限り利用させていただきご本人の意向に添えるよう努めさせております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診への付き添い支援や月に1回の往診の手配等、ご家族の希望を大切にし、納得がえられたかかりつけ医との密な連携をとり、適切な医療を受けられるような支援を行っています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は日常の関わりの中で知りえた情報を看護職と情報共有を行い相談し入居者に適切な受診や看護が受けられるように努めております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様の状態変化に早期に対応し、入院期間の短期化に努めています。また搬送先病院等には、早期な情報提供を行い、受診が円滑に行われるよう努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、重症化、終末期の方針をご家族様から聞き取り、施設で行える対応について説明しています。また、その状況に際したり、向かっている際はかかりつけ医の協力のもと、他施設や医療機関への転居をお願いしております。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者様の急変や事故発生に備え、緊急搬送等、随時看護師より指導、実技講習を定期的に行い実践力の向上に努めています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回(1回は消防署の立ち入り検査)の防災訓練を行い、災害時対応ができるよう徹底しております。また防災訓練に地域の方に参加していただき、協力が得られるような体制づくりに努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様一人ひとりの人格の尊重、尊厳を守るように日々傾聴し、その方に合った言葉かけを行うように努めています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の日常生活での思いや希望を傾聴しご本人様からの自己決定ができるよう支援させていただいています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の決まりや都合ではなく、入居者様の一人ひとりのペースや生活リズムを大切に、支援をさせていただいております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様それぞれに希望をお聞き、選択していただけるような支援を行う中で、その人らしい生活が出来るよう努めております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれに合った役割や、食事の配膳、下膳等その方に出来る事を行っていただくように心がけ毎日にハリのある生活を送っていただけるよう支援をさせていただいております。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の栄養状態、体重の把握し、食事の提供を行っています。水分補給に関してはご本人の希望の飲み物を伺い提供させていただいております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行い、口腔内の状態の把握が出来るよう努めています。また口腔ケアが出来る限りご本人で行えるよう支援をさせていただいております。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様のそれぞれの排泄パターンを把握する事で排泄の失敗がないような支援を行っています。可能な限りトイレでの排泄をしていただけるように支援をさせていただいております。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排泄をチェック表にて確認し、毎日のラジオ体操、口腔体操等の運動に働きかける等、便秘への個々に応じた予防に取り組んでおります。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には入浴日は決めさせていただいてますが、個々に合わせて随時希望を確認し、希望に沿えるよう支援させていただいております。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様それぞれの生活リズムに合わせてそれぞれに合った生活を送っていただけるよう支援させていただいております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報のファイルを作成している事や看護師からの情報伝達が随時行われており、業務日報、朝礼にて周知徹底し介護士全員に症状の把握に努めております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様一人ひとりの趣味や生活歴に合わせて、毎日楽しくご本人のペースに合った生活ができるよう努めております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的に地域のお祭りや、喫茶店、近くのお店に買い物に行く等外出、外泊ができるよう支援させていただいております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭に関しては施設での管理としています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	テレビ電話が出来る環境があるため、遠方の家族や知人と顔を見ながらの会話が楽しめます。また、手紙のやり取りに関しましても、ご本人やご家族のご意見に合わせて支援させていただいております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は開放的となっており、馴染みのある畳も設置しており、照明はすべて暖色系の物を使用し、外の光を感じられるように工夫をしております。庭園には椿と楓があり、一年を通して、四季を感じて頂ける工夫をしております。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースでは一人の時間が確保できるように、テーブルから離れた所にソファを設置している事や気の合ったご利用者様同士で過ごす事ができるように座る位置等に留意しております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具は使い慣れた馴染みのある物をお持ち頂くようにし、生活環境に変化があっても、混乱を防ぎ、ご本人が居心地よく過ごす事が出来るように努めております。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人様の意思表出に対し、出来る事を理解して頂き、今持つ「できる能力」のなかで、ご本人が自立心をいただいていたけるような生活、役割を職員と共に考え、支援しております。		